

2020年度 学校関係者評価委員会報告書

学校評価委員会（自己点検・自己評価）の第1回 学校関係者評価を行いました。
その結果を下記のとおり報告します。

1. 学校関係者評価委員会

評価委員

久留米大学経済学部教授（学識経験者）
八女学院高等学校 講師（学識経験者）
筑後市立病院 看護部長（専門分野関係者）
柳育会訪問看護ステーション 看護師（卒業生）
学生保護者（PTA）

学校側

医師会長・学校長
医師会副会長・学校担当理事
副学校長
准看護科教務主任
看護科教務主任
事務長
事務次長（進行）

2. 日時 : 2020年7月31日（金）18:55~20:15

3. 議題

- 1) 八女筑後看護専門学校 自己点検・自己評価について（高治）
これまでの取り組みの経緯について
・准看護科・看護科の自己点検自己評価結果は、ホームページにて公表
- 2) 2019年度学生状況について（高治）
- 3) 2019年度 准看護科評価結果について（下川）
・ホームページにて公表
- 4) 2020年度 准看護科重点課題について（下川）
・ホームページにて公表
- 5) 2019年度 看護科評価結果について（深町）
・ホームページにて公表
- 6) 2020年度 看護科重点課題について（深町）
・ホームページにて公表

7) 質疑応答・意見交換

質問・意見	回 答
<p>1. 2019 年度退学者が増加している理由について。</p>	<p>・看護科においては単位制であるため、退学せず3年目に履修できなかった単位を履修していく学生がいる。特に実習では解剖生理学や疾患の学習が不足しており、つまづく学生や精神的に弱い学生もいる。授業時間数が准看護科と比べ300時間の増加であり、同じ2年の年限で過密なスケジュールに戸惑い、ついていけない等での退学者がいる。</p> <p>准看護科においては、1年生の早期に人間関係の構築や、抱いていた学校生活と現実との違いで退学する。2年生は実習で学力や技術の不足、態度面で履修できない状況の中、1年間やり直さなければならないということで退学を選択する学生がいる。</p>
<p>2. 看護科の学生アンケートで就職支援の満足度が低いことに対する見解は。</p>	<p>・学生の就職支援として、近郊の病院に就職している本校卒業生との交流会を開催し、看護師として実際の勤務状況等について話してもらっている。</p> <p>また1年次から業者による就職状況や就職活動に向けた対策等の説明会を開いている。しかし学生はそれらが就職支援という認識につながっていないようだ。</p>
<p>3. 学生が具体的にはどんな支援を望んでいるのか。</p>	<p>・個別の相談に対応できるようチューター制も取り入れてはいるが、学生は、近郊だけではなく、多方面の医療機関等の説明を望んでいる。</p> <p>学校はあくまでも学生の自主性を尊重する形をとっている。</p>
<p>4. 学校理念は素晴らしい。本校卒業生が就職しているが、かなり理念が浸透していることを実感する。教育理念と同様、看護職の厳しさも浸透させながら立派な卒業生を輩出してほしい。</p>	

<p>5. 学校として学生に対して様々な取り組みがされるようになってきている。看護職も多様化している。いろいろな所で活躍している認定看護師等を教育に活用し、卒業後のスキルアップの流れを指導しても良いのではないか。</p>	<p>・看護師として働いている卒業生などに話をしてもらう機会はあるが、認定看護師など取得している卒業生など人材の活用を拡げていくことも考えたい。</p>
<p>6. 講師として関わっている経験では、例年でいけば1～2名退学し、さらに2年生になり退学している。今年度の准看護科1年生は40名と人数は多く、現在退学者がいないことからお互い励まし合っているように思われる。学力の差は感じるが、退学者がいないことは素晴らしい。</p>	
<p>7. 実際看護師として働いている卒業後のイメージを持たせるとよいのではないかな。</p>	<p>・学生自身が実際に働いている姿をイメージできると学習意欲や苦しい時の忍耐力がつく。できる限り、イメージができるように学生に伝えていく。 准看護科において1年時は座学がほとんどで、2年生になって実習中心になっていく。今年はコロナの影響で6月から本格的な授業がスタートし、7月から看護技術演習が行われている。</p>
<p>8. 学生は人間関係で悩んでいる子が退学していると聞く。できれば退学者を少なくしてほしい。自分も働いていると、今どきの若い人は、我慢できない人が増えているように感じる。厳しさに慣れていない。厳しさと優しさの両面で教育をお願いしたい。</p>	<p>・1年時の講義では問題ない学生も、2年時の実習のハードさ、難しさに耐えられない状況になる。学生のストレス耐性を強化する為には、ある程度学内でも厳しくすることも必要だと考え、学生の成長には、両面を意識しながら関わっている。</p>
<p>9. 看護科学生の2年次のアンケート結果で肯定的意見が低くなる国試対策、就職支援、個別指導に対し、改善すると良いのではないかな。</p>	<p>・今年度の重点課題に挙げ、取り組むように考えている。</p>

10. アンケートの比較において、2019 年度の評価だから仕方がないが、1 年生と 2 年生の結果は、同じ母集団ではないので 2 年間の変化を見るならば、同じ母集団で比較すると良い。また評価する際、できるだけ数値化する方が前年度と比較しどのように改善したのかなど外部の者からはわかりやすい。